

「第2回利用団体説明会」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が、施設の利用方法や各活動プログラムの内容を理解するとともに、実際にプログラムの一部を体験する。

2. 事業の概要

(1) 期 日

令和6年7月8日（月）

(2) 参加者

①参加対象 令和6年度利用団体、利用の仕方の説明を希望する各団体の引率者

Aコース：7月10日～8月31日ご利用の団体

Bコース：6月4日～8月31日ご利用の団体

※A Bコースで募集したが、応募があったのはBコースのみ。

②参加人数 Bコース（応募5団体6名）

③参加者の内訳 小学校教諭2名、特別支援学校教諭1名

社会教育団体指導者3名

3. 企画運営のポイント

(1) ①各団体の実態に応じるための説明や案内を実施した。

②施設利用説明・施設見学を学校団体と社会教育団体で分かれて実施した。

(2) 両コースともゆとりある時間配分にして、参加者からの質問を受けやすい体制を整えた。

(3) 開催日を平日に設定し、学校職員が出張で参加できるようにした。

4. 日程

午 前	午 後
開会行事 施設利用説明 施設見学	施設見学 個別打ち合わせ アンケート記入

5. 主な活動内容



施設利用説明（学校団体）



施設見学（館内）



施設見学（屋外）

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足6名（100%）

(2) 参加者の声

- 入所時の動きや職員の配置など具体的なアドバイスがもらえた。
- 個別の打ち合わせでは、何でも相談できるということがとても心強かった。
- 食堂の利用もできたので、児童への指導のイメージをつかむことができた。
- 活動計画書など、提出書類の書き方についても丁寧に説明してもらえたので分かりやすかった。
- 実際に見学することで利用のイメージができた。

(3) 成果

- 学校団体と社会教育団体で施設利用説明・施設見学を分けて実施した。団体の実態に応じた説明・見学をすることで利用のイメージをより明確につかんでもらうことができた。
- 個別の打ち合わせでは十分な時間を確保でき、団体の質問に丁寧に回答し、設側からの提案も伝えることができた。
- 施設利用説明では、昨年度からの変更点を中心に伝えることで、参加者が利用する際、注意しなければならない点の具体的な把握につながった。

(4) 課題

- 参加団体が少なかったため、団体ごとの丁寧な対応が可能だったが、参加団体が多い場合の職員配置や実施方法については検討が必要である。

担当：中山 太平